

学 長 定 例 記 者 会 見 要 項

日 時: 平成26年2月4日(火) 11:00~11:30

場 所: 事務局第二会議室(小白川キャンパス、事務局4階)

発 表 事 項

1. 直江兼続の新たな文書(現物)を発見しました!
2. 「藤沢周平の江戸・東京」を開催します
3. 人文学部国際学術講演会「ナスカとパルパの地上絵と社会」を開催します

お 知 ら せ

1. 駐日ルワンダ共和国大使 公開講演会のご案内
2. 山形県民シンポジウム in 長井「みんなでつくる長井のしあわせ」の開催

(参 考)

- 次回の学長定例記者会見(予定)

日 時: 平成26年2月18日(火) 11:00~11:30

場 所: 事務局第二会議室(小白川キャンパス、事務局4階)

平成26年2月4日
山形大学

直江兼続の新たな文書（現物）を発見しました！

大河ドラマ「天地人」で一躍全国区の人となった直江兼続の書状の現物が個人宅で見つかりました。慶長5（1600）年7月27日附の直江兼続が家臣（本村造酒丞、上泉主水佐、榎並三郎兵衛、青柳隼人佐）に宛てたものです。当時上杉勢が、徳川家康の会津征伐に怯えながらも、伊達政宗勢と戦っていた緊迫した状況を伝える書状です。筆跡や花押から現物と考えられます。

本書状は、「覚上公御書集」という1782年頃、上杉景勝期の資料集を書写したのに見えますが、直江兼続文書の現物は少なく、また当時の緊迫した状況を伝えて貴重です。

◆文書内容

書状を拝見しました。

一、（伊達勢）が河俣（福島県河俣町）へ動いたというので心配していたが無事に途中から敵を追い立て、すぐに（河俣）城を攻め落とし、城主の桜田氏をはじめ残るところなく討ち果たしたという。各々の頑張りはずばらしいことである。

一、（福島県伊達郡内の）小手の内の大館にも青柳ならびに上泉主水組から人数を遣わし、即時に攻め落とし、なで切りに申しつけたという。心地好き次第である。両地（河俣と大館？）ともに（敵の）首数注文をこちらへ差し越しなさい。

一、白川より申してきたことによれば、岩付（岩槻）から内府（徳川家康）が引き帰されたということである。しかしながら、事実ではないであろう。追々こちらから申遣すべきことである。

一、白石に伊達政宗がいるというので、後詰（後方支援）を申しつけられた。しかしながら、こちら側（直江軍）の小旗を見たら敵は引き上げるであろう。まず、そちら（白石）へ引き出て、討ち果たすように相決めた。各々が相しのいで、政宗の様子を注進するのを待っている。



（お問合せ先）

人文学部人間文化学科・教授 松尾 剛次

電話：023-628-4917

Mail:kmatsuo@human.kj.yamagata-u.ac.jp

直江兼統書状

書状披見

- 一、 河俣之地へ相動之由、無心元候処、無異儀半途より押立、則城責落、桜田を始、無残所討果候由、各粉骨無是非候事、
- 一、 小手之内大館へも青柳并主水組より人数遣、即時ニ、責落、なて切ニ申付候由、心地好次第二候、両地共頸数注文可指越候事
- 一、 白川より申来義ハ、岩付より内府被引帰之由、乍去実儀ニハ有之間敷候か、追々可申遣候事、
- 一、 白石ニ正宗有之由、則後詰被仰付候、併此方小旗先見候ハハ、引揚げ候ハハ、先其表へ引出、可被討果ニ相究候、各相凌候て、正宗行之様子、注進相待候、謹言

七月廿七日

兼統（花押）

本村造酒正殿

上泉主水佐殿

榎並三郎兵衛殿

青柳隼人佐殿

（訳）

書状を拝見しました。

- 1、（伊達政宗が）河俣（福島県河俣町）へ動いたというので心配していたが無事に途中から敵を追い立て、すぐに（河俣）城を攻め落とし、城主の桜田氏をはじめ残るところなく討ち果たしたということだ。各々の頑張りはずばらしいことである。
- 2、（福島県伊達郡内の）小手の内の大館にも青柳ならびに上泉主水組から人数を遣わし、即時に攻め落とし、なで切りに申しつけたという。心地好き次第である。両地（河俣と大館）ともに（敵の）首数注文を差し越しなさい。
- 3、白川より申してきたことによれば、岩付（岩槻）から内府（徳川家康）が引き帰されたということである。しかしながら、事実ではないであろう。追々こちらから申遣すべきことである。
- 4、白石に伊達政宗がいるというので、後詰（後方支援）を申しつけられた。しかしながら、こちら側（直江軍）の小旗を見たら敵は引き上げるであろう。まず、そちら（白石）へ引き出、討ち果たすように相決めた。各々が相しのいで、政宗の様子を注進するのを待っている。

その説明は私が！

232 直江兼統書状

一幅 IX-10

(慶長五年・一六〇〇)八月六日
上一四 八×四一〇
下一四 八×三九二
米沢市上杉博物館

Handwritten Japanese calligraphy in two columns, written in a cursive style (sōsho). The text is a letter from Naikaku Kanetomo to the daimyo of Echigo, dated August 6, 1600.

(黒(青)字→紫字の順に読む)

追而、玆義御座候者

自是可申上候、以上

御書拜見、此表

無相換義候条、

不致言上候、自

佐竹使者之

様子者、昨日申

上候、定而可致参

着候、それかし罷歸候

儀、爰元承合、

得御意、其上可罷

歸候、今月中之

御歸二相極候条、

方々無油断承

合候、玆儀候者

可申上候、然者

佐和山より之使者

被召出、御懇比可然

奉存候、拙者罷着

本書参候ハ、御返報

相調為上可申候、又

越後一揆之儀ハ

不苦候条、成次第一

被仰付御尤奉

存之由、御披露、恐々

山城守
八月六日 兼統(花押)
助二郎殿

景勝側近清野長範宛の書状。佐竹氏や石田三成からの使者への対応、越後一揆の問題などについて景勝への披露を求めています。緊迫した状況で兼統は様々な対応に迫られていました。

兼統とは別行動であった景勝のもとに三成の使者が到着(佐和山より之使者)。報告を受けた兼統は自分が戻って(おそらく三成の)書状をみた後で返事を調える(拙者罷着本書参候ハ、御返報相調為上可申候)と述べています。三成との具体的交渉は兼統の指示によって進められていることが分かります。上方の西軍との連携において兼統は上杉家の中心的存在として活動していたといえます。

この書状では佐竹の外交にも兼統の大きな位置を見出せます。慶長五年の政局において兼統が上杉氏において中心的立場で行動していることがうかがわれます。

二依テ 公甚御感悦有テ山城守ニ命シ返翰ヲ遣サル 其地正宗カ兵河俣地へ相動ノ由内々其聞
 へアレハ 途中マテ兵士ヲ出シ 敵士櫻田某カ籠リ居ル 河俣邊土ノ古堡ヲ攻落シ 櫻田ヲ始
 メ 殘黨ニ至ルマテ討果ス 其粉骨勝テ量ルヘカラサル由御感アリケル 并ニ小手郡ノ内大館ニ
 青柳隼人 上泉主水カ組ノ人数ヲ以テ攻撃シ 盾籠ル敵兵ヲ誅討ス 右兩地ニテ討トル首級
 會津ニ注進スレハ御感斜ナラス 且又白川ヨリ告來ルハ 家康岩付邊ヨリ帰陣ノヨシ注進アレ
 共 其真偽ハ分明ナラス 白石ニハ正宗在陣ニ付 即援勢ヲツカハサル 其兵旗先ニ見ヘナハ
 敵兵ハ必引返スヘシ 然ラハ行テヲ以テ 其邊マテヲヒキ出シ 討トル軍謀肝要ナレハ 正宗
 カ軍ノ模様注進油断アルヘカラストナリ 其返書云

連書令披見候

- 一 河俣地江 相動之由無心元候処半途迄各乘出敵城責落櫻田始無殘處討果之由粉骨御感之事
- 一 小手内大館江 青柳并上泉組之人数以而即時責無切申付候由心地好次第候兩地上而之首級注進御感之事
- 一 自白川申來分者自岩付内府被引返之由乍去責儀者不相知候追而可申越候事
- 一 白石正宗在陣之由付而後助被 仰付候併此方之小旗共先見候者正宗引退可申候案其表引出可討

果候各軍謀油断不可有之候尤正宗行之様子注進可申上候恐々謹言

直江山城守

七月廿七日

兼續

本村造酒丞殿

上泉主水正殿

榎並三郎兵衛殿

(原基)

同年秋八月四日 福嶋城ニ差置ル 小田切安藝守 車丹波守 本村造酒丞 青柳隼人佐ニ公命
 有テ 直江山城守ヨリ書札ヲ遣ハス 梁川加勢ノ面々ハ異事ナク相越候哉 且又其表ノ普請等
 在陣ノ者トモ相談シ 急度申付油断アルヘカラス 又内府ハ小山ヨリ退陣ノヨシ其沙汰アレト
 モ 虚實未タ分明ナラス 正宗事我兵士ヲ見テ モシ逃レ去コトアラハ遺恨少カラス 此計畧
 尤嚴重タルヘキ由公命アリ 其書云

急度申遣候先日梁川江 加勢之者共無異儀相移候哉其表普請之事在庫衆令相談急度可申付候不可
 有油断旨 御意候謹言

平成26年2月4日
山形大学

「藤沢周平の江戸・東京」を開催します

山形師範学校の卒業生である作家 藤沢周平氏に焦点を当てたイベント、「藤沢周平の江戸・東京」（文学散歩＋講演）を2月28日(金)に深川で開催します。

◆背景

全国に向けた山形大学の情報発信を目的に、本学地域教育文化学部の前身、山形師範学校の卒業生である作家 藤沢周平氏に焦点を当て、平成23年度に「藤沢周平の江戸・東京」をテーマに本イベントを文部科学省と合同で実施しました。

藤沢作品の主要な舞台となった江戸の面影残る東京で、文学散歩と藤沢文学研究者による講演を実施し、好評を得て、昨年度に続き、今年度が3回目の開催となります。

◆内容

日時：平成26年2月28日(金)

第一部 文学散歩「深川－文学の舞台を歩く」

開催時間 13:00～14:40

集合場所 大正記念館(東京都江東区清澄3-3-9 清澄庭園内)

ナビゲーター 山形大学基盤教育院 教授 山本 陽史

第二部 講演 「深川－水辺の文学」

開催時間 14:50～16:10

会場 大正記念館

講師 山形大学基盤教育院 教授 山本 陽史

募集定員：文学散歩 50名、講演 100名 (いずれも先着順)

参加費：文学散歩参加者は500円(入館料、保険料等)、講演参加者は無料。

申込受付：平成26年2月5日(水)午前9時から ファックス又はE-mailで

(お問合せ先)

山形大学総務部広報室

電話：023-628-4008

Fax：023-628-4013

E-mail:koho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

山形大学 特別イベント

山形大学地域教育文化学部の前身の山形師範学校を卒業した作家藤沢周平の作品の舞台となった江戸の面影残る東京で、江戸文学・藤沢文学の研究者のご案内による文学散歩と講演会を実施しますので、ご案内いたします。

藤沢周平の 江戸・東京

平成26年2月28日(金) 13時～16時10分

第一部 文学散歩「深川―文学の舞台を歩く」

○開催時間 13時～14時40分

○集合場所 大正記念館(東京都江東区清澄3-3-9 清澄庭園内) 12時50分集合

○ナビゲーター 山形大学基盤教育院教授 山本陽史

○内容 藤沢作品の舞台となった、深川を歩き、藤沢文学の世界と今も残る江戸の名残をナビゲーターの案内で探訪します。

○コース(予定) 大正記念館―臨川寺―万年橋―芭蕉稲荷―隅田川テラス―小名木川―高橋―靈巖寺―深川江戸資料館―大正記念館

※荒天等の場合には、深川江戸資料館の見学のみとなります。

第二部 講演「深川―水辺の文学」

○開催時間 14時50分～16時10分

○会場 大正記念館

○講師 山形大学基盤教育院教授 山本陽史

参加費 500円
(深川江戸資料館入館料・保険料等)

文学散歩参加者のみ当日現金でいただきます(講演のみの参加は無料)

<交通案内>



●参加者募集(先着順): 文学散歩 50名・講演 100名

●受付開始: 2月5日(水)9時から

※受付開始日時前の申込は無効となりますのでご注意ください。

お申し込み方法は、裏面申込書をご覧ください。



お問い合わせ

山形大学総務部広報室

電話: 023-628-4008 FAX: 023-628-4013

E-mail: koho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

＜申込先＞ 山形大学総務部広報室

FAX:023-628-4013 E-mail : koho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

「2014 藤沢周平の江戸・東京」申込書

お申し込みの際は、以下に必要事項をご記入の上ファックスをお送りいただくか、以下の情報を入力して E-mail をお送りください。

なお、**平成26年2月5日(水)午前9時前**のお申し込みは**無効**となりますので、ご注意ください。

ふりがな お名前 (生年月日)	(年 月 日生)	性別
		男・女
ご住所	〒 -	
連絡先電話番号	ご自宅： - - 携帯電話： - -	
E - m a i l	@	
参加方法 希望に○をつけてください	*文学散歩ご参加の方はそのまま講演会もご聴講ください 文学散歩+講演 ・ 講演のみ	
山形大学からの連絡方法 希望に○をつけてください	郵送 ・ ご自宅電話 ・ 携帯電話 ・ Eメール	

※今回記載していただいた個人情報は、この催しに関する事務処理のみに使用いたします。

※文学散歩は、安全な道・場所を引率者が配慮の上案内いたしますが、参加は自己の責任でお願いいたします。

(仮に自己の責任に基づく事故・怪我等があった場合、主催者側は責任を負いかねます。)

平成26年2月4日
山形大学

人文学部国際学術講演会

「ナスカとパルパの地上絵と社会：考古学研究の最前線」を開催します！

高校生・大学生・一般市民を対象とした、人文学部国際学術講演会「ナスカとパルパの地上絵と社会：考古学研究の最前線」を開催します。

参加費は無料です。是非ご参加ください！

◆開催趣旨

ペルー南海岸ナスカ地域およびパルパ地域における最新の調査成果に基づき、これらの地域における社会の実態および地上絵をめぐる研究の最前線を提示します。ナスカ期だけでなく、その前後の時期に制作された地上絵、居住地、神殿、墓、鉱山といった様々な遺跡調査から、当時の社会組織や環境変化といった幅広いテーマを議論します。また、長年、地上絵の保護活動に貢献してきた楠田枝里子氏（司会者・エッセイスト）による特別講演も予定しています。

◆概要

日時：2月22日（土）13：00－17：00

会場：山形大学小白川キャンパス 基盤教育2号館222教室

対象：高校生・大学生・一般市民 ※参加費無料・申込不要

内容：

[特別講演]

「ナスカと私」 楠田 枝里子（司会者・エッセイスト）

[一般講演]

「ペルー南部、パルパ地区における気候変動と居住地・地上絵に対する影響」

Climate Change and its Impact on Settlements and Geoglyphs in Palpa, South of Peru

マルクス・ラインデル（Markus Reindel）（ドイツ国立考古学研究所）

「ナスカの儀礼と宗教：2千年間の変化」

Two Thousand Years of Ritual Practices and Religion in the Nasca region of Peru

クリスティーナ・コンリー（Christina A. Conlee）（テキサス州立大学）

「周縁からみたナスカ社会：村落と鉱山からの新たな視点」

Nasca Society from the Periphery: New Perspectives from Villages and Mines.

ケヴィン・ボーン（Kevin Vaughn）（パデュー大学）

「ナスカの地上絵と社会変化」

坂井 正人（山形大学）

使用言語：日本語（外国人研究者の講演には日本語の通訳があります）

(お問合せ先)

人文学部人間文化学科・教授 坂井正人

電話：023-628-4785

Mail: sakai@human.kj.yamagata-u.ac.jp

人文学部事務室 樋口

電話：023-628-4203

Mail: jisoumu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

山形大学人文学部国際学術講演会

ナスカとパルパの地上絵と社会 〈考古学研究の最前線〉

Geoglyphs and Society in Nasca and Palpa: Recent Advances in Archaeological Research.

2014年 2月22日(土) 午後1時～5時

会場: 山形大学 (小白川キャンパス) 基盤教育2号館 222教室

一般公開 (参加無料 / 申込不要 / 定員: 300名 [先着順])
使用言語: 日本語、英語 (通訳あり)



○山形駅東口より東方約2キロ○山形駅東口より徒歩約25分○山形駅東口より県庁前行きバスで約5分…南高前(山大入口)下車10分○仙台駅より山形行き高速バスで約60分(南高前(山大入口)下車10分 ※山形～仙台間の高速バスは平日76便、土日・祝日65便運行しています。



ペルー南海岸ナスカ地域および
パルパ地域における最新の調査成果に基づいて、
当時の社会の実態および地上絵をめぐる
研究の最前線を提示します。
ナスカ期だけでなく、その前後の時期に制作された
地上絵、神殿、居住地、鉱山といった
様々な遺跡調査から、
当時の社会組織や環境変化といった
幅広いテーマについて論じます。
長年、地上絵の保護活動に貢献してきた
楠田枝里子氏による特別講演を予定しています。

特別講演

「ナスカと私」楠田 枝里子 (同会者・エッセイスト)



一般講演

マルクス・ラインデル

Markus Reindel (ドイツ国立考古学研究所)
「ペルー南部パルパ地区における気候変動と居住地・地上絵に対する影響」
(日本語通訳あり)
Climate Change and its Impact on Settlements and Geoglyphs in Palpa, South of Peru

クリスティーナ・コンリー

Christina A. Conlee (テキサス州立大学)
「ナスカの儀礼と宗教: 2千年間の変化」
(日本語通訳あり)
Two Thousand Years of Ritual Practices and Religion in the Nasca region of Peru

ケヴィン・ボーン

Kevin Vaughn (パデュエ大学)
「周縁からみたナスカ社会: 村落と鉱山からの新たな視点」
(日本語通訳あり)
Nasca Society from the Periphery: New Perspectives from Villages and Mines

坂井 正人

(山形大学)
「ナスカの地上絵と社会変化」

お問い合わせ先 — 山形大学人文学部事務室 山形市小白川町一丁目4-12 TEL023-628-4203

主催: 山形大学人文学部

共催: 国立民族学博物館 科学研究費補助金基盤研究(S)「権力の生成と変容から見たアンデス文明史の再構築」(研究代表者: 国立民族学博物館教授・関雄二)、
科学研究費補助金新学術領域研究「環太平洋の環境文明史」(研究代表者: 茨城大学教授・青山和夫)、頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム「ナスカ地上絵の学際的研究における次世代研究者養成とネットワーク構築」(研究代表者: 山形大学教授・坂井正人)
協力: 古代アメリカ学会

平成26年2月4日
山形大学

※ 詳細は別添の資料をご覧ください。

1. 駐日ルワンダ共和国大使 公開講演会のご案内

農学部にてルワンダ共和国駐日大使をお迎えし、公開講演会を行います。ルワンダ紛争から20年、絶望から希望に満ちた国へと変わったルワンダの驚くべき転向ストーリーを紹介していただきます。大変貴重な機会ですので、ご興味のある方はぜひご参加ください。

日時：2月10日（月）16:30～18:00

会場：農学部3号館3階302講義室（鶴岡市）

内容：「1994年のジェノサイドーあれから20年経ったルワンダの現在ー」

講師者 チャールズ・ムリガンデ大使（Dr. Charles MURIGANDE）

※予約不要・入場無料

2. 山形県民シンポジウム in 長井「みんなでつくる長井のしあわせ」の開催

山形大学は、長井市と共催で、山形県民シンポジウム in 長井「みんなでつくる長井のしあわせ ～学び、考え、創造する未来のまちづくり～」を開催します。本シンポジウムでは、基調講演、地域の方からの話題とパネルディスカッションを通じて、今後の発展を担う地域が求める人材育成、地域連携によるまちづくり、みんなでつくる長井のしあわせについて考えます。

日時：3月8日（土）13:30～16:45（13:00 受付開始）

会場：タスパークホテル（長井市館町北6-27）

内容：

第一部 基調講演

「新しいローカリズム～コミュニティ経済・連帯経済と地方都市の持続可能な発展～」

山形大学人文学部長 北川 忠明 氏

第二部 パネルディスカッション

「長井のしあわせを考える～これから10年先の未来へ～」

山形工科短期大学校長 勝見 英一朗 氏をモデレーターに、4名のパネリスト

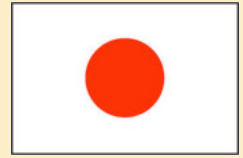
※ これまでの学長定例会見でお知らせをしたもので、開催がせまっているイベント

◎大学コンソーシアムやまがた『やまがた夜話』の開催

「大学コンソーシアムやまがた」では、「もう一つの人づくり」を実現するため、「山形県の人・モノ・地域作り」をテーマにそれぞれの得意分野で活躍している第一人者の目線で皆さまにわかりやすくお話しする講話「やまがた夜話」を開催しています。

2月は、「子どもと一緒に科学しよう！大人のための科学実験講座ーホームメイド・サイエンスー」をテーマに3回シリーズで開催します。

- ◆日 時：2月12日「おいしいを科学しよう！台所実験室」
2月19日「どくと～るMINの実験夜話～身の回りにある素材を利用した実験～」
2月26日「子どもが自力でできる実験工作の工夫」
※全回 水曜日 18：30～19：30
- ◆場 所：ゆうキャンパス・ステーション（山形市：山形むらきさわビル1階）
- ◆対 象：高校生・学生・一般市民 定員50名（参加費は無料）



駐日ルワンダ共和国大使 公開講演会



講演内容

1994年のジェノサイド

—あれから20年経ったルワンダの現在—

講演者

チャールズ・ムリガンデ大使

(Dr. Charles MURIGANDE)

日時：2014年2月10日（月） 16:30～18:00

会場： 山形大学農学部3号館3階302講義室

予約不要・入場無料

【問い合わせ先：山形大学農学部企画広報室】

TEL:0235-28-2803 FAX:0235-28-2812

E-mail: nosenken@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

1994年、ツチ族と知られている国民の一部の人々の排除を当時のルワンダ政府は遂行した。ツチ族に対する虐殺と戦争を終わらせるのに少なくとも100万人の命が失われ、数十万もの孤児ややもめを生み出した。全国民を隣国に難民として追放し、すべての社会経済基盤を破壊し、荒廃した国、そして人々に精神的な外傷という大きな爪痕を残した。

しかし、このたった20年間で絶望の国からアフリカで最も希望に満ちた国へと変わった。今日、ルワンダは最も安全かつ清潔な国、世界でも投資のしやすく、発展著しい国となった。

～ルワンダの驚くべき転向ストーリーを是非聞きにきてください～

チャールズ・ムリガンデ氏 (Dr. Charles MURIGANDE)

◆略歴

- - 1958年8月15日、ルワンダで生まれる
- 1986年 ベルギーのNotre-Dame de la Paix 大学で数学博士を取得

◆職歴

- - 1986年10月-1988年10月 :ブルンジのブルンジ地理研究所(Geographical Institute of Burundi, IGEBU)所長のアドバイザー、並びに同所のコンピューターセンター長
- - 1989年1月-1994年8月 : アメリカの ワシントンD.C.にあるHoward大学で博士研究員となり、後に助教授となる。また同大学の癌センターの生物統計学部(Biostatistics Division) 部長として医学部でも教鞭をとる。
- - 1994年9月-1995年8月 : ルワンダ共和国大統領付き外交問題顧問
- - 1995年9月-1997年3月 : 運輸通信大臣
- - 1997年4月- 1998年5月 : ルワンダ国立大学学長
- - 1998年2月-2002年11月 : ルワンダ愛国戦線(RPF)事務局長
- - 2002年11月-2008年3月 : 外務協力大臣
- - 2008年 3月-2009年7月 : 内閣府大臣
- - 2009年7月-2011年3月 : 教育大臣(兼科学技術大臣)
- - 2011年8月より駐日ルワンダ共和国大使
(在オーストラリア、ニュージーランド、フィリピン、タイ兼任)

山形県民シンポジウムin長井

みんなで作る長井のしあわせ

～学び、考え、創造する未来のまちづくり～

平成26年

3月8日(土)

13:30～16:45(13:00受付開始)

会場

タスパークホテル(2階コンベンションホール2)
〒993-0011 長井市館町北6-27 TEL 0238-88-1833

参加費無料

人づくりが、未来づくり

地域を活性化させるためには、若く活力ある人材の活躍が必須です。特に子供達・若人達は、将来地域の貴重な財産となる人材です。

地域を理解し、地域を愛し、そして地域に住む若い人材が、地域を変えてくれます。このような地域人材は、単に、学校教育だけで育成されるものではありません。世代、立場、職種等を超えた地域住民一人ひとりが関わりを持ち、一丸となって育てていかなければなりません。

本シンポジウムでは、基調講演、地域の方からの話題とパネルディスカッションを通じて、今後の発展を担う地域が求める人材育成、地域連携によるまちづくり、みんなで作る長井のしあわせについて考えます。

プログラム

13:30	シンポジウム開会 挨拶 山形大学長 長井市長 長井商工会議所会頭	結城章夫 内谷重治 横澤泰雄
第一部 基調講演		
13:45	〈演題〉「新しいローカリズム ～コミュニティ経済・連帯経済と地方都市の持続可能な発展～」 山形大学人文学部長	北川 忠明
第二部 パネルディスカッション		
15:00	テーマ「長井のしあわせを考える ～これから10年先の未来へ～」 〈モデレーター〉 山形工科短期大学校長	勝見 英一朗
	〈パネリスト〉 ・(株)昌和製作所 代表取締役社長 ・曹洞宗三峯山洞松寺住職 ・山形大学渉外部教授 ・山形大学人文学部3年	小関博資 小野卓也 山崎真二 廣谷早織
16:45	閉会	

主催：山形大学 共催：長井市 後援：山形県教育委員会、長井市教育委員会、長井商工会議所

お問合せ先

〒990-8560 山形市小白川町1丁目4-12 山形大学渉外部渉外課(社会連携担当)
Tel.023-628-4015 Fax.023-628-4849 E-mail yamadaikouryu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

〒993-8601 長井市ままの上5番1号 長井市企画調整課
Tel.0238-87-0817 Fax.0238-83-1070 E-mail project@city.nagai.yamagata.jp

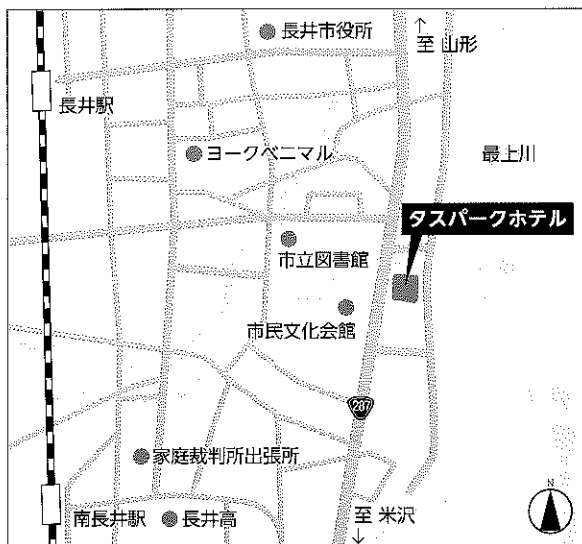
山形県民シンポジウム in 長井 〈参加申込書〉

お申し込みは、2月28日(金)までに**E-mail**または**FAX**でお願いします。
 なお、E-mailの場合は、下記の全項目を入力の上、送信願います。

E-mail yamadaikouryu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp **FAX** 023-628-4849 (渉外課あて)

氏名	ふりがな			年齢	代
職業(所属)	連絡先	電話			
		メール			
氏名	ふりがな			年齢	代
職業(所属)	連絡先	電話			
		メール			
氏名	ふりがな			年齢	代
職業(所属)	連絡先	電話			
		メール			
氏名	ふりがな			年齢	代
職業(所属)	連絡先	電話			
		メール			
氏名	ふりがな			年齢	代
職業(所属)	連絡先	電話			
		メール			

※個人情報は本事業以外には使用しません。



会場

タスパークホテル

2階コンベンションホール2

〒993-0011 長井市館町北6-27

TEL 0238-88-1833

やまがた夜話

テーマ

子どもと一緒に科学しよう！
大人のための科学実験講座
-ホームメイド・サイエンス-

2月12日(水)
18:30~19:30

「おいしいを科学しよう！台所実験室」

高品 善 氏 (山形県商工労働観光部科学技術振興主査
/サイエンスナビゲーター)

内容：自然科学を体感していただきます。少し試飲、試食あり！

2月19日(水)
18:30~19:30

「どくと〜る MINの実験夜話

〜身の回りにおける素材を利用した実験〜」

石井 実 氏 (山形大学地域教育文化学部教授
/サイエンスナビゲーター)

内容：おもしろ化楽(かがく)実験をお楽しみいただきます。

2月26日(水)
18:30~19:30

「子どもが自力でできる実験工作の工夫」

有路 宏司 氏 (元・公立小中学校教員/サイエンスナビゲーター)

内容：皆さんと実験や工作をします！

※26日の講座を受講される方はハサミとホチキスをご持参ください。

会場 ゆうキャンパス・ステーション
(山形むらさきさわビル1階)

アクセス 山形駅東口より徒歩1分

対象 高校生・学生・一般市民
定員：50名

入場無料

お申し込み 電話又はチラシ裏面の参加
申込書に必要事項を記入の
上Fax、郵送、メール等でお
申し込みください。



主催

大学コンソーシアムやまがた
山形市

後援

お申込み・お問合せ

〒990-0039 山形市香澄町1-3-15 山形むらさきさわビル1階
Tel: 023-628-4842 FAX: 023-628-4820
E-mail: unicon@jm.kj.yamagata-u.ac.jp



大学コンソーシアムやまがた



FAX:023-628-4820

大学コンソーシアムやまがた事務局 行き

やまがた夜話に参加申込みをします。

必要事項を明記の上、FAX・郵送またはE-mailにてお申込ください。

申込締切日:それぞれの夜話前日までにお申込をお願いいたします。

参加日	参加希望日に☑、又は日付を○で囲んでください。 <input type="checkbox"/> 平成26年 2月 12日(水) 講師: 高品 善 氏 <input type="checkbox"/> 平成26年 2月 19日(水) 講師: 石井 実 氏 <input type="checkbox"/> 平成26年 2月 26日(水) 講師: 有路 宏司 氏
住 所	〒
氏 名	
連絡先	TEL
	E-mail
所 属	

受講申込者が多数の場合は、お手数ですが参加申込書をコピーしてご利用ください。

この申込書にご記入いただいた情報は、今回の講座を受講するために必要な事務連絡等に使用すると共に、参加者名簿の作成にのみ使用させていただきます。

【お申込み・お問合せ先】

大学コンソーシアムやまがた ゆうキャンパス・ステーション

〒990-0039 山形市香澄町1-3-15 山形むらきさわビル1階

TEL:023-628-4842 FAX:023-628-4820 E-mail:unicon@jm.kj.yamagata-u.ac.jp